



プロフィール

香川県出身
奈良教育大学教育学部身体・表現コース美術教育専修卒業
大学院教育学研究科修士課程美術教育専修在籍
奈良市展、奈良県展など多数入選
2009年第83回国展入選
同年、関西国展関西西国画賞受賞

個展など

平成23年3月予定・・・ GALLERY ARTISLONG (京都市中京区三条通堀川西入ル一筋目角)
常設・・・ cafe FLUKE (近鉄奈良駅前 東向商店街内 奈良市東向中町10)

彫刻のおもしろさは何ですか。
平面では、自分の中にあるもの(思っていること)を2次元に収めないといけない。でも彫刻の場合は、自分と同じ世界にそれをポツと置けばそれだけで存在感がでるんで

奈良教育大学大学院に進まれた理由は
3回生のとき経験した教育実習での出来事が大きく影響していますね。
美術の時間で紙粘土を使って握りこぶしを作るという課題を生徒に出したのですが、はじめ四角柱を作ってへらで削って握りこぶしの形にしていこうと教えたのですが、ある生徒が紙粘土を手形に切り抜いて、その指の部分で折り曲げて握りこぶしを作ったんです。その発想は、とてもうれしかったのですが、自分は四角柱を作るやり方でもうまくいかなかったんです。そのことをうまく説明できなかったんです。そのことで、自分が専門的に学んでやってきたことを説明できないよつでは、まだまだ先生になることなんてできないと思ってしまうんです。もちろん、大学院に行ったからすべてがわかるということはないですが、今もまだ学ぶことが多いです。大学院にはいつから余

最後に読者へひとこと
もっと作家との距離が近づいてほしいと考えています。多くの人に作品を生で見せて感じてほしい。言葉にできなくても、感覚で感じてもらうのもいい。どう見てもうって自由です。みなさんの感想を聞いて自分(作家)も気付かされることが多いのでぜひギャラリー、美術館などに足を運んでみてください。

高校生の頃から美術をやっていたのですか。
高校の頃から美術部で絵を描いていたのかとよく聞かれるんですが全くそんなことはないです。文系コースで、バスケットボール部で体を動かしていました。
でも、文系コースなのに数学と美術が得意だったんです。それで高校2年生の終わり頃、進路を考えたときに、中学校時代に短期間教えてもらった非常勤の美術の先生がすごく熱い人で印象に残っていて、自分も美術の先生になりたいなと思ったんです。それで実技試験のために、画塾に通いだしました。それが本格的に美術を始めたきっかけです。

美術を通じて一番学んだことと得たことは
言葉にできないことを専門にしている分野なんです。それを作品でカバーしていると思えます。自分も自分自身を言葉では説明するのは苦手なんです。作品だと表現できるというかそんな表現方法を学んだ気がします。今までは、作品も身近な人に見てほしいと思っていましたが、今は自分という人間を知らない人に作品だけを見て感じたことを聞かせてほしいと思うようになってきました。

今後の目標は
作品でいえば、やっぱり作品の解説をしなくても感じてもらうような作品を作りたい。そして美術に関心のない人に自分の作品を好きになってほしい。
個人的には、博士課程に進んで大学などで美術の教員になる人に美術を教えたいと思っています。将来先生になったとしても作品を作り続けることが大切だということを伝えていきたいと思っています。



キラリ☆奈教生

第84回国展 千野賞受賞！
彫刻を通じ空洞の果てなき魅力に迫る！！



山下圭介さん

大学院 教育学研究科 修士課程
教科教育専攻 美術教育専修 2回生
香川県立坂出高校出身

緑に囲まれた大学キャンパスに吊り上げリフトなどの重機が設置された一角がある。そこが彫塑実習室だ。そこではいわゆる「つなぎ」と呼ばれる作業服を来た美術科の学生が一心不乱に木くずを浴びながら制作作業に打ち込む。そこで誕生した山下さん制作の彫刻作品「ヒューマン・コミュ」が、第84回国展彫刻部「千野賞」(受賞者1名)に輝いた。感性を研ぎ澄まし山下さんが作品を通して伝えようとした思いは何だったのか、話を聞いた。

受賞作品について聞かせください。
自分は「空洞表現」というものを研究しています。この作品にも穴があいているのですが、例えば何も無い白壁を眺めたときにどこを見ていいのか視点が定まらないです。でも例えばここに穴が一つあればそこを見てしまふ。つまり視点が集中するんです。こんな風に作品の中にある「空洞」がもつ意味(効果)を定義づけるのが研究テーマです。

この作品のタイトルは「ヒューマン・コミュ」つまり人間とコミュニケーションをとるという意味です。例えばこの作品にある穴を誰かが覗いて他の誰かと目があつたりするという原始的なコミュニケーションという意味もあれば、先ほどの「空洞表現」の効果であつたように、作者である自分が作った穴で見る人の視点を集中させる、作者と見る側とのつなげるという意味がこのタイトルにはあります。
もう一点、今回新たに挑戦したのが、「空洞」と「隙間」が共存できるのかということ。この作品は、木材を分割し隙間をつくり真鍮でつないでみました。
今までの作品には「空洞」だけが作らず、視点の集中を「空洞」だけで勝負していたのですが、これを「隙間」も使って見る人の視点を幅を持たせました。
でも、視点が色々なところに動いてしまふということもあり、「空洞」と「隙間」が共存できるのかということも知りたいと思っています。
もちろん自由に見てもらって、ただ穴をのぞいてもらうだけでいいんです。作品を見て「なんかよくわからんけどいいな」と言われることが一番うれしく感じます。美術作品と